

《「ホザンナ」と叫ぶ心、「十字架につける」と叫ぶ心》

お説教の前に改めて皆様をお願いしたいことがあります。この頃、ミサの前の落ち着きがまたなくなっているように感じます。お知らせが後ろに置いてあったためか、お聖堂に入られてからもお互いに挨拶を交わしたり、お喋りをしたりする姿が見られます。ミサの始まる時間前までには来て、心を整え、心の準備をしなければなりません。聖堂は祈る場所、自分だけでなく他の人も祈っている場所です。

ですからこの場所は“神様との出会いがちゃんと出来る場所”になって欲しいと願っています。またお子さんを連れたいお母さん方にもお願いがあります。子供たちが大きな声を出すのは自然なことですが、ミサの最中、もし自分のお子さんが泣いたりして、それが他の人の邪魔になると感じたら、そっと外に連れて行って落ち着いたら戻って来て下さい。その様な配慮を私達は互いにすべきだと思います。日本語の分からない方にはその国の代表の方が伝えて下さい。

ミサは私達にとって大事な、そして必要なものです。ミサを捧げる司祭や待者の子供たち、そして皆様と心を合わせ、心を一つにしてこそ、ミサが素晴らしいものになると思います。もう一度お願い致します。

さあ、今日はミサの前に外で私達は何をしましたか？“枝の行列”をしました。その行列する前に私が読んだ福音は「エルサレムにご自分の十字架を負う為に入られるイエス様を、多くの人々が大声で手を振りながら歓迎する姿」でしたよね。そしてお聖堂の中に入って、第1朗読、第2朗読と読みました。そして受難記を読みました。その中身は何でしたか？

外では私達は「ホザンナ、ホザンナ、ダビデの子、私達の王」と歓喜の声を挙げましたが、このお聖堂の中では「十字架につける、十字架につける」と叫んだのです。何故今日、「ホザンナ、ホザンナ」と言った同じ口で「十字架につける」と言わせるように典礼がつくられたのでしょうか。理由があります。

エルサレムに入られるイエス様を、本当の喜びを持って「ホザンナ、私達の王」と叫んだ同じ口で「十字架につける、殺せ」と言った人々こそがおかしいと思いがちですが、これはユダヤ人のことを言っているわけではありません。

私達の心の中に“両面性”(二面性)が生きています。「ホザンナ」叫ぶ心がここにあります。「殺せ、十字架につける」という心も同じくここにあります。結局私達はこの人生の中で、求めなくてはならない、取り組まなくてはならない、頑張らなければならないのは「ホザンナ」が「殺せ」と叫ぶ心に負けないようにすることです。それが信仰の歩みです。

さあ、この胸の中には怒りもあるし、慈しみもあります。どちらが皆様に救うのでしょうか。同じ口で“人を殺すこと”も“人を生かすこと”も出来ます。何でも出来ます。それを決めることは皆様にかかっています。今日“枝の主日・枝の日曜日”に私達が振り返ってみなければならないのは、私達の中にある“良いもの”が同じく私達の中にある“悪いもの”に勝つように力を注いで来たのかという自問です。それを考えることです。これが出来なければ、聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、そして復活祭の意味が薄くなってしまいます。そのためには赦しの秘跡も必要です。

皆様、私達は“聖週間”に入っています。四旬節中、あまり上手く過ごさなかった方々は特に、この聖週間だけでも、もっときれいな心を持つように、もっと信仰的な体験が出来るよう心を開けるように、そしてイエス様が十字架につけられる時、一緒にその痛みと与えるよう心を尽くして欲しいと思います。

お願いがあります。聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、そして復活祭にどの位の方が与って下さる

かわかりませんが、時間的に許されれば、時間的に少し無理をしても、出来るだけミサに来て頂きたいと思います。明日からの月曜日、火曜日、水曜日、そして聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、復活祭」、心を少しずつきれいにし、具体的に“主の復活”を体験して頂きたいと思います。

私達の心には死ぬまで、“きれいな心”そして“その反対の心”があります。きれいな心が必ず勝つように。その為にはイエス様の導きと慈しみがが必要です。そのためには私達が意識せずに自然に空気を吸い込む様に、祈りの生活をきちんと身に付けなくてはなりません。

最後に今、皆様は“枝”をお持ちですよね。この頃、色々な家庭を訪問していますが、私がおその家庭に入ってまず見るのは、十字架がどこにかけられているかです。しかし仏壇はすぐ目について、十字架がまず目に入ることが少ない。立派な物でなくても、十字架であることが分かる物をかけて下さい。十字架は隠すものではありません。他の方が来ても「この方はカトリック信者だ」すぐ気が付くように、誇りとして一番目立つ所の壁にかけて下さい。それを見る子供たちは成長しても必ずその“十字架”が残ります。これは信仰の一つの教育です。

今持っているこの枝を十字架につけて(十字架と一緒にして)1年間飾ります。“主の受難の日曜日”のことをこの枝を見ていつも思い返せるようにします。そして来年の灰の水曜日が来る頃には、この枝は緑から茶色へと変わり完全に枯れます。それを教会に持って来て焼き灰を作ります。もし、十字架がない方は是非求めて下さい。お金がない方は私が準備します。そして是非一番目立つ所にかけて下さい。

子供たちがよく見るところにかけて下さい。この十字架は、私達の心そのものを表すものです。

ありがとうございました。